令和２年度（第13回）国土交通大臣賞〈循環のみち下水道賞〉

広報・教育部門

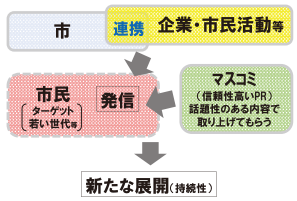
音が伝える！ひとが伝える！下水道の魅力
～ポジティブＰＲ作戦～

新潟市

下水道をつくる時代から管理する時代への転換期のなか、市民からは下水道への関心が薄れつつあります。しかし、下水道の維持管理には終わりがなく、今後も持続可能な事業経営を行っていくために、多くの方に下水道の重要性を理解いただくことが不可欠と考えており、本市では、下水道PRプロジェクトチーム「水玉クラブ」を結成して下水道の魅力を伝える活動を行ってきました。

今やるべき下水道PRの第1歩として下水道に対するネガティブなイメージをポジティブなイメージに捉えてもらうことだと考えて、行政のみでは技術面や予算面で実現が難しいことを、地域の企業や団体と「連携」することによりチャレンジし、その活動をマスコミから取り上げてもらい、双方から発信する下水道PRを行いました（右図より）。

下水道PR方法の体系図



1.全国初！音の出るマンホール蓋「しゃべるマンホール」

マンホール蓋メーカー・音響メーカー及びＪリーグチームと連携し、マンホール蓋に音という要素を追加する社会実験を行いました。

実施期間：2019.7.26～2019.8.30（36日間）
音の出る時間：午前9:00～午後9:00（12時間）
設置場所：新潟駅万代口広場・南口広場（各1か所）

2.「ひと」に焦点をあてた下水道冊子

民間企業と連携して、下水処理場の建設経緯や仕組みを働く人・住む人の声を通じて伝える冊子を作成しました。

冊子は教育委員会に寄贈し、地域の小学生に配布されました。

下水道パンフレット
水キレイ工場のおはなし

3.アニメの祭典「がたふぇす」におけるマンホール蓋展示

本市において開催するアニメ・マンガの祭典「がたふぇす」を若い世代へ直接ＰＲを行う機会と捉えて、他都市の有名なデザインマンホールを借用し、ブース出展を行いました。

事前展示の様子

4.下水道工事現場親子見学会de新聞づくり

下水道工事において親子見学会を開催しました。見学会をもとに下水道新聞づくりを行い、夏休みの自由研究や下水道いろいろコンクールへの応募に活用されました。

新聞展示の様子

PRポイント！

- 行政のみでは技術面や予算面で実現が難しいことを地域の企業や団体と「連携」してチャレンジできたこと
- 下水道に関心が薄れつつある若い世代・女性をターゲットに受入れやすい内容としたこと
- プレスリリースには、マスコミに取り上げてもらえるよう「目新しい内容は何か」「誰と実施したか」「マスコミ向けの発表会」を盛り込んだこと

取組の効果！

- しゃべるマンホールは、県内の全テレビ局から取り上げられ、多くの方に下水道を知ってもらえるきっかけをつくれたこと
- 下水道冊子は市立図書館から寄贈依頼をいただき、15か所の市立図書館で貸し出しを行っていること
- 下水道冊子作成を通じて、企業と地域団体が直接、結び付き、下水処理場に接する潟の水質改善に向けて取り組むなど広がりを見せつつあること

Key Person

新潟市下水道管理センター施設管理課
左：副主査　小柳琢利
真ん中：新潟市下水道キャラクター「水玉ぼうし」
右：課長補佐　遠山慎二

「しゃべるマンホール」社会実験では、灼熱の太陽のもと、あまりの高温でしゃべるマンホールが熱中症（故障）になってしまいました。いかにマンホール蓋が過酷な環境にあることが改めて思い知らされました。

この度の「連携」をキーワードとした下水道ＰＲには、多くの方々から支援や協力をいただき、１年を通じて様々な取り組みを行うことができました。

今後も、多くの方に下水道のイメージをネガティブなイメージからポジティブなイメージに受け止めてもらえるよう、「連携」をキーワードに取り組んでいきます。